23. 鉱 山 機 械

MINING MACHINERY

炭鉱の合理化は、石炭調査団答申に基づく政府施策として、出炭 規模は昭和42年までは年5,500万tとし、出炭能率は38.8 t/月/人 を目標とし、非能率炭鉱の閉山と高能率炭鉱の増強を行ない、エネ ルギ革命に直面して石炭産業を自立安定させるにある。その達成へ の最重点は出炭能率の向上におかれ、集約合理化の線で進められ た。切羽の集約は、面長を長くし、進行を早めるため完全機械化の 方向が取られ、ドラムカッタローダが大手に止まらず、長尾鉱業株 式会社、北島鉱業株式会社に納入された。また採炭作業中機械化の 遅れている支保作業を容易にするために、天磐際も積極的に切截す るダブルドラムカッタローダが常磐炭砿株式会社に引き続き、羽幌 炭砿株式会社、三菱鉱業株式会社に納入された。

機械採炭時には時として大塊が生じ、運搬機の停止を余儀なくされることがある。それに対処するため塊炭処理機を製作し、松島炭鉱に納入し好成績を納めた。

切羽運搬機では、切羽の長大化と進行が早まったので、運搬能力増強の要があり、駆動ユニットとして40kWが標準となり、使用ユニット数も増加されてきた。雄別炭砿株式会社に納入されたトリプルチエンコンベヤはこの動力増加に対処する一つの方向である。

新しい運搬方式として、中興鉱業株式会社に全長950 m, 駆動ユニット50 kW 3 台のダブルベルトコンベヤが納入された。

また注目を浴びている水力輸送設備は,石炭技術研究所へ納入, 古河好間鉱業所で実用試験が継続され,送炭量 99.3 t/h の実績をあ げており,その実用化に自信をもつことができた。

23.1 コールカッタ

23.1.1 塊炭処理機

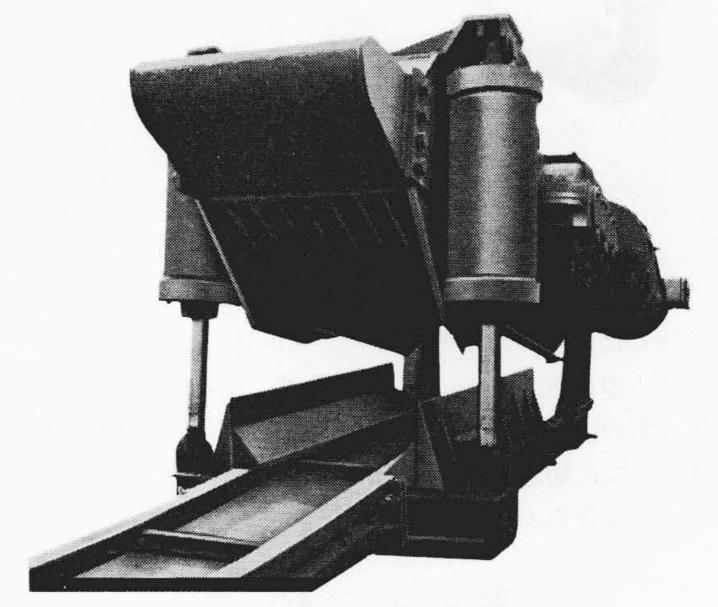
厚層,もしくは硬質炭層の完全機械化切羽(特にドラムカッタローダおよびホーベル切羽)においては,しばしば石炭およびボタが,大きなかたまりとなって崩落するので、後方運搬、たとえばパンコンベヤ、ベルトコンベヤ、あるいはその積込部であるシュートおよびポケットなどにおいて、もれ炭、炭詰まりが発生し、著しい障害となり、コンベヤはもとより、採炭機の実働時間を低下させる原因となることがある。

この障害を取り除く目的で完成された本機は、他社製に比べて、はるかに大きい塊炭・ボタに対しても、十分適応でき、かつその破砕力は、横軸二段加圧式を採用したため、非常に強力であり、なおかつ、この種の機械として必要条件である小形化について十分考慮が払われている。本機は、主として切羽または片盤坑道のダブルチェンコンベヤの任意の位置に取り付けて、コンベヤチェンで送られて来る塊炭・ボタを、加圧以前にわずかに持ち上げて、破砕を容易にするとともに、中板の破損防止を兼ねた特殊構造を有している。

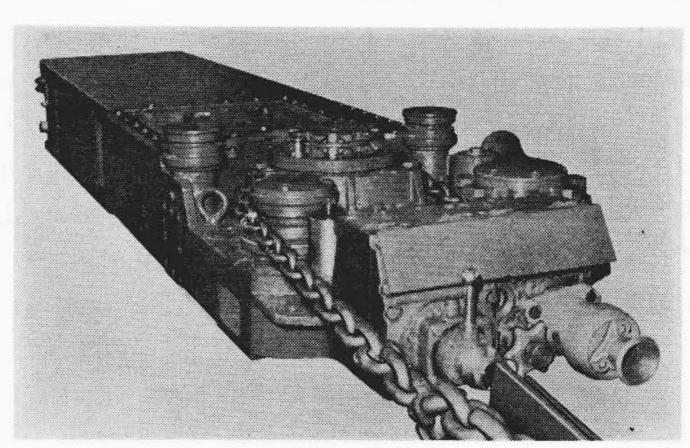
塊炭・ボタは、運搬方向に沿って設けられた二個のツノロールと、 それに対抗する特殊トラフとの間で二本の圧気シリンダと揺動わく の自重による押付力で破砕される。

揺動わくを上・下させる装置として切替バルブが設置され、塊炭・ボタの大・小に応じて自由に操作が可能であり、材料運搬の際は揺動わくを上方に押し上げて、ツノロールと関係なく通過させることができる。

据付後は、今まで手力によった大塊小割作業にかわって、その威力を遺憾なく発揮している。



第1図 塊 炭 処 理 機

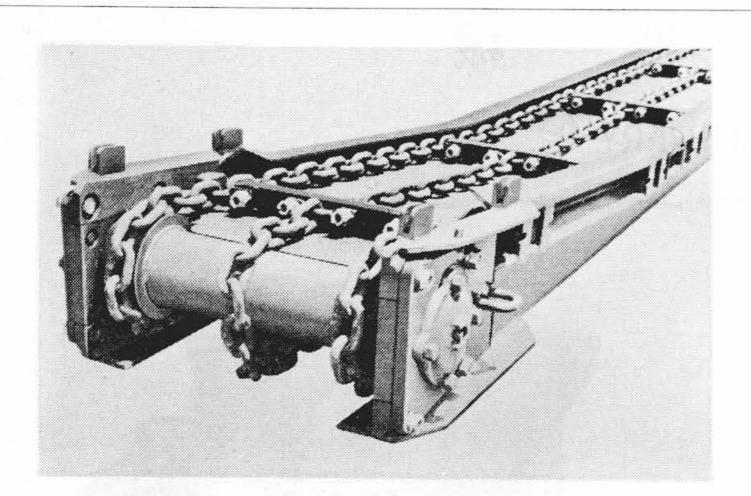


第2図 45kWチェーンフィードコールカッタ

23.1.2 45 kW チェーンフィードコールカッタ

コールカッタのチェーンフィード方式は、75,90kW級に採用され、好評を得ているが、このたび 45kW コールカッタのチェーンフィード化とフィード部分の改良に着手し、その一号機を羽幌炭砿株式会社三松採炭所に納入することができた。フィード部分の改良に当たっては、歯車伝達機構の改良、すなわちウォームかみ合いの効率を上げ(従来の一条を一挙に三条ネジとした。) 材質組み合わせを改良し、効率と負荷容量の増大を図り、けん引力を約30%増大した。

上記の機能向上と寿命の延長とともに、そのチェーンフィード化は使用時における実働率の向上と保守管理の改善に対処できた。すなわち、従来のロープフィード方式では、切透しの途中でフィードドラムのロープ巻き込み長さに応じて、透しを中断しなければならない。この場合、払い長さ150 m として最低4~5回のロープほどき延長操作が必要となる。他方、巻取ドラムをエンドレスドラムとして切羽全長にロープを張り、巻取ロープをある種の装置で緊張させる方法がある。しかしこの方法によると、ロープの摩耗が大きくなるとともに、無効張力が発生し、切羽の起伏、屈曲によってロープを切断したり、緊張装置の事故を生じたりする。また緊張装置が適切でないと、ドラムとロープ間にスリップを生じ、所要のローププルを確保できないこととなる。ロープが切断するときのそれに伴う災害、ロープを張るための採炭作業の支障などを生じ、良策ではない。これらロープの場合の欠点を取り除いたチェーンフィード方式は、(1)アンカーの取り付けおよび取り替えを必要とせず、本方



第3図 トリブルチェーンコンベヤ

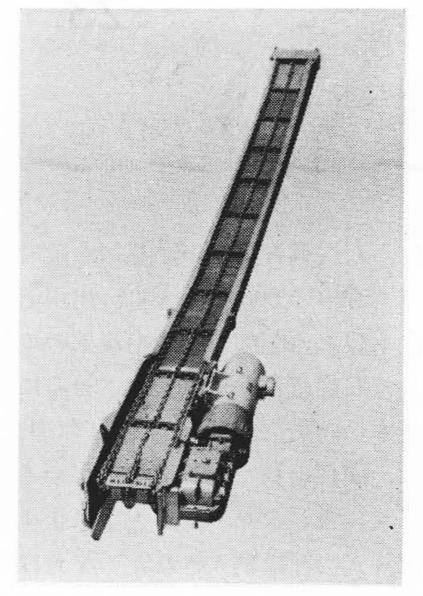
式を採用しただけで実働率25%の上昇が見込める。(2) スプロケ ットドラムの正逆により、カッタの前進、後退がハンドル一つで自 由に無段階のスピードに切り替えができる。(3)天盤の悪い場合, 全切羽を一気に切透すことなく,時間損失なしに部分的な切透し, 積み込みができる。

23.2 コンベヤ

23.2.1 トリプルチエーンコンベヤ

切羽,片盤コンベヤにダブルチエーンコンベヤを使用しているが, 今回新たにトリプルチエーンコンベヤを製作した。ダブルチエンコ ンベヤは、スクレパを両端で固定する構造であるが、トリプルチェ ンコンベヤは, まん中にもう一本チェーンを使用し, 特殊クリップ を使用して, スクレパを固定している。チェンスプロケットも従来 2本のチェーンを駆動したが、さらに1枚のスプロケットツースを 使用し、3本のチェーンを同時に駆動する構造になっている。

トリプルチェーンコンベヤは、次に述べる5部品のほかは、ダブ ルチェーンコンベヤと共通になるように製作した。



第4図 3 本チェーンコンベヤ

- (1) スプロケットドラム (2) リタンプーリ
- (3) ヘッドフレーム中板先端
 - (4) スクレパ
- (5) クリップ

なお、トリプルチェーンコンベヤをダブルチエーンコンベヤとし て使用する場合は, 部品交換をする必要がない。

炭鉱の能率化が進み, 出炭量増加にともない, 運転中急激に負荷 が増大したり、チェーンのひっかかりなどが原因でチェーン切断の 事故を発生する場合がある。このような場合、ダブルチェーンコン ベヤでは切断の発見が遅れて、運転不能になったり、トラフの下側 チエーンが切断したなどで取替作業に手間どり, その間の出炭停止 が稼動率低下となり、損失が多い。トリプルチェーンコンベヤで は、チェーンが一本切断しても、運転不能にはならないので、作業 の容易な場所まで切断個所を移動できる。よって修復作業時間が非 常に短縮される効果がある。

昭和38年度における日立製作所の社会	小講演の灰果	(件数)
--------------------	--------	------

(昭和37年11月~昭和38年10月)

								TIME COMMITTEE AND			(HIROT 21/) HIROU 10					
		37/11	12	38/ 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計		
	日立工場場工場	7	1	1	1	2	1,	1 1	1	1	1	1	4	22		
拝	国 分 工 場	5	2		$\frac{1}{1}$	3				1	8		2	22 22 3 13 31 46 11 6 5 24		
w.	場場場場場場場場場場場場場場場場場場場場場場場場場場場場場場場場場場場場場	2 7	5 4	3	1 5	2	2	3	1 4	5	1 4	,	1	33		
色	五工 場 場 工 場 場			3	э	2 1 1	3 1 1	4 2	3 2	9	2	1	2	1		
i	多 賀 工 場 工 場 工 場	1 2 2		ĭ	2	4		4	3	1	1 4	i	1 4	2		
	日呉国勝水笠亀川清多亀習栃横戸神茂武那中日本大そ 工 エエエエエエエエエ エエ エエ エエエ エエエ エエエ エエエ エエエ エ					,	-			1	1		1			
I	栃 木 工 場横 浜 工 場戸 塚 工 場神 奈 川 工 場	15 1	3	1		1	1		3		5	2	1 4	3		
	神 奈 川 工 場	4				1		1	1	1	2 2	1	3	3 1 2 39 19 3 3		
	那 坷 工 場 中 央 研 究 所 日 立 研 究 所	59 34	25	3 62 25	1 13	10	2 14	2 21	4 30	4 66	2 41	1 14	6 44	39		
	一	2	25 12 3	25	4 6	5 4	$\frac{2}{1}$	4 1	30 15 5	66 21 3	31	10 3	34 6	19		
	大 阪 営 業 所 他		4			2			1				1			
	計	154	59	101	35	41	29	44	74	115	113	38	116	919		
	電 機 両	49 7	35	16	5 1	$\frac{7}{2}$	3	10 1	4	21 4	43	5 1	32 1	230		
	電 車 機 形 形 化 学 製	5	4	5	6	2 2 2	3 1	5	4	9	8	3	8	23 2 6		
	化 学 製 品 プ ラ ン ト	2	6	8		1		,	e 1					1		
	商 家 電 し る で 信 る 機 る カ り り り り り り り り り り り り り り り り り り	3 2 30	2	2		1	$\frac{1}{3}$	1	.1	2	3 1 19	1 4	6 1 17	10		
	コンピュータ 番 品	30 12 18 10	2 5	1 8	$\frac{1}{2}$	2 2	J	3 1	12 2 4	3	1	6	13 8	49		
	計 測 器 宏	14	7	16 44	8 12	8 10 3	8	4 14	7	15 58	18 5 12	4 8	12 15 3	9 49 63 9 239 1		
	経 営 管 理 他	2		1		3	1	14 3 1	36 2 2	$\frac{1}{1}$		$\frac{1}{3}$	3	17		
	≣1·	154	59	101	35	41	29	44	74	115	113	38	116	919		
	学 協 そ の 他	128 7	45 3 11	75 14	12 6 17	10 8	12 4	11 12	29 22 23	83 18 14	88 10	13 7	80 8	586 119 214		
-		19		12	17	23	13	21	23	14	15	18	28	214		
	dž•	154	59	101	35	41	29	44	74	115	113	38	116	919		